

巻頭の辞

神戸市立病院紀要第55巻の発行の運びとなりました。この一年間の市民病院の多くの業績をまとめられたことに対して、感謝と敬意を表します。

この機会に、過去の市民病院紀要を見ました。私も過去に症例報告を3編執筆していました。懐かしく思い出されます。ただ最近、症例報告の論文が少なくなっているようです。今になって思いますが、若い時に論文を書く習慣をつけることが大切であります。特に症例報告を学会で発表する際には、もうその論文原稿が出来上がっているようにしておきなさいと指導医より言われたことが思い出されます。症例報告を発表・論文作成する際には、多くの文献を検索し、病態を論理的に考察し、まとめていく作業が必要です。苦勞をすればするほど論文が完成した時の喜びは大きいものとなるはずです。自分の業績となり、さらに臨床医としての医学的知識を深めることになると考えます。

平成30年度より新専門医制度が始まります。若い先生方には、専門医取得のため臨床経験と学会発表・論文作成などの業績が求められてきます。そののちの専門医としての資格の継続も厳しくなっていくことが予測されます。そのためにも学会発表や論文投稿の習慣をつけることが重要と考えます。年数が経つにつれ、臨床医の中で、よく学会活動や論文作成をしている医師と全くしない医師に分かれてくるように思います。日常の診療に追われ大変ですが、前者になれるように日々熱意と努力が必要です。それにより特定の疾患に対して、病態や治療に関する知識が深められ、臨床の場で役に立つと確信しています。若い先生は、論文を書く習慣を一日も早く身につけることが重要であると思います。その誌上発表の場として、神戸市立病院紀要をお勧めします。

今回本誌の総説は、中央市民病院院長の坂田隆造先生の「日本心臓外科診療の現状と課題」です。その中で、成績不良施設は年間手術症例数が少ない施設に多く見られたと、今の日本の心臓外科の課題を提起されています。症例報告3編と医療研究報告2編が合わせて掲載されています。今後多くの論文が本誌に投稿されることを祈念して、巻頭の辞とさせていただきます。

神戸市立医療センター西市民病院

院長 山本満雄